

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は多田誠一議員、副委員長荒川栄悦議員）は、専決処分3件、条例2件、予算1件、その他3件について付託を受け、審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全9議案が原案のとおり可決・承認されました。

国庫支出金減額の経過とそれに伴う関連事業の今後の見通しは

問 国の過疎集落等自立再生緊急対策事業費交付金が大幅な減額となったが、その経過は。

答 この補助金は上限額5千万円で申請したが、最終的な内示額は5百万円であった。国に確認したところ、申請数が当初見込みの4〜5倍の件数とのことで、当市としても交付額の見込みが甘かったと反省している。

問 この事業は、小友中学校跡地に産直ともちゃんの加工施設

を整備するものだが、今後の予算措置の見通しは。

答 中学校跡地活用については白紙に戻し、地元と再度協議をするほか、産直の強化や買い物支援の事業費を圧縮して、市費で約2千万円の事業費に組みなおしている。8月頃までには具体案を提示したい。

遠野市重要文化財千葉家住宅の取得後の管理は

問 地域でどれだけ話し合いがなされたのか。

答 公有化に向けた話し合いを3回行った。来年から保存計画



遠野遺産第42号 日出神社

を策定し、具体的な修復工事になるが、文化庁にどの程度期間が必要か見てもらう。それを踏まえ、地域に説明

問 物品販売に関する計画は。

答 地域が活用する場合は許可が必要だが、当面は修復工事が始まるまでの営業となる。

問 計画に千葉家住宅周辺の景観を活かす考えは。

答 建物と景観を活かした計画を立てたい。

問 立竹木の管理は。

答 今後の活用計画で定める。



公有化された国指定重要文化財千葉家住宅

公用車事故多発に対する今後の対策は

問 公用車事故が5件報告されたが、この事実をどのように受け止めているか。

答 今回の5件はこれまでに比べ多いと認識している。近年職員の公用車運転での物損事故等も増加傾向にあるため、安全運転管理者の指導のもと、改善していかなければならないと考えている。

問 かも運転等の徹底が必要と思うが、今後の再発防止策は。

答 職員の安全運転に部課長会議等でことあるごとに伝え、それを各部署の職員に浸透させることを日々行っている。5月にも副市長名で交通安全、法令順守等について職員に通知を出したところであるが、通知だけでなく、徹底的に事故を未然に防ぐ努力を今後実践したい。

施設入所者への虐待の把握と市の指導は

問 昨今マスコミ等で施設入所者への暴行事件などが報道されているが、本市の各種入所施設の中でそのような事実の有無の把握は。

答 確かにそのような事例はある。特に認知症のグループホームで言葉による暴力であるとか、事実関係ははっきりしていないが、身体的な暴力が疑われる事例も発生している。

問 施設の職員の大変さは理解できる。パワハラや言葉の暴力など、入所者と職員相互の交流で改善される面もあると思うが、市の指導内容は。

答 認知症のグループホームは、市に事業所の指定・指導監督の権限があり、定期的な職員や介護の状況を確認している。万が一暴行等の通報があった場合には、直ちに施設に出向き事実確認やそ

問 市指定文化財の赤松が枯れてきているが、周辺地域から状況を聞き取りながら担当部署として管理すべきでは。

答 松くい虫被害が出ている。所有者に情報提供しながら対応を協議していく。

これからの除雪対策はどうあるべきか

問 毎年のことであるが、除雪に来てくれないという苦情がでる。グレーダー台を財産取得したからといって、その解消にはなかなかつながらないと思う。機械の入れない狭い所、除雪弱者等への対策も必要と思うが。

答 遠野市では、23年度に遠野市除雪対策検討委員会の提言を受けている。一つ目は、除排雪の方針等の理解を得るため、市民や関係者に周知・徹底することだ。二つ目として、除雪状況を把握しつつ、小型ロータリー車、ダンプ等の組み合わせ



市街地の狭い道路の除雪風景

の工夫により、市街地や歩道の除雪を推進していくことである。三つ目としては、行政としても除雪機械を整備し、柔軟に市民への対応ができるよう、行政と除雪受注業者との緊密な連絡体制を構築することである。

沿岸被災地後方支援事業費返還の内容及その理由は

問 遠野まごころネットから事業費（委託料）の一部が返還される内容と理由は。

答 岩手県と当市の事務指導により、当

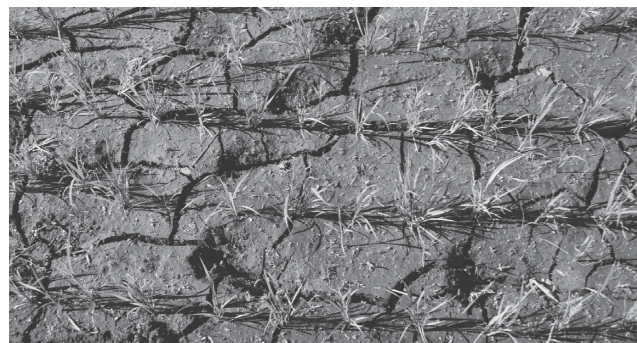
の状況を聴取する方法をとるとともに、各施設で2ヶ月に1回行われる連携推進会議の中で、虐待や介護の問題点などの情報提供をしながら指導に当たっている。

水不足による農作物への影響は

問 春先の水不足により、田植えをあきらめた農家がいると聞くが、その実態を把握しているか。

答 水不足で田植えができず、そのまま田植えをしていない農家、そして田植えをしていない農家があることは知っているが、その面積などについては把握していない。

問 早急に調査し、自己保全管理にならないようにしなければならぬ。また、震災の影響で地域によつ



水不足で干上がった水田

答 現在、作付けできない面積については未確認の状況だが、そうした水田については、自己保全管理や調整水田になる。転作になるかは七月の転作確認により、明確な数字が出てきた段階で対策を講じたい。水脈については専門的なことであり、今後検討対処したい。



被災地でのまごころネットの活動風景